

Goal 11

住み続けられるまちづくりを

SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES

11 住み続けられる
まちづくりを



●この目標(Goal)の解説

普段当たり前のように使っている電気やガス、水道や交通、廃棄物処理など、基本的なサービスをみんなが受けられるような社会を目指します。また、スラム街の状況を改善したり、災害への対応を強化することも含まれます。



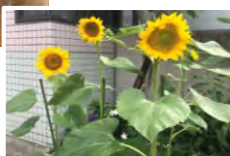
この目標で焦点を当てているのは私たちの「居住空間」です。上記にもあるように、普段私たちが使っている基本的なサービスを、地球に住むすべての人が受けられるように、一部の地域や国に偏ることなく（目標10との兼ね合い）進めていく必要があります。世界中にスラム生活者は10億人に及ぶといわれています。スラム生活者の改善には大規模な投資が必要ですが、今の私たちからすると実現には少し遠いことのように思います。この目標で、私たちだからこそ実現できることは気候変動などの災害へ対応する力です。年々増加する台風被害などの自然災害は今の私たちだけでなく後世にまで被害をもたらす危険があります。自分が住む町のハザードマップを見たり、いざというときの避難場所や避難経路の確認をしたり、非常用持ち出し袋を備えたりするなど、できることはたくさんあります。様々な災害が起こりうる今、自分ごとに捉えて準備をすることが大切です。災害が起こってしまったのは遅いのです。私たちのこうした小さな取り組みが、教訓として受け継がれ「住み続けられるまち」の実現に近づくと考えます。

●大学生協での実践事例



滋賀県立大学生協 防災と君と秋

災害が多い現代社会において防災の大切さを組合員に知ってもらうために取り組みました。「住む町」のリスクを知るために、実際に市役所の危機管理課を訪れました。災害時の写真やハザードマップの展示、防災バッグの中身の紹介、非常食が当たる抽選会を行いました。抽選カードは防災に関する豆知識を紹介するカードにしました。



取り組み当日に種まきを行ったひまわりが咲きました！

甲南大学生協 1・17防災の取り組み

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災にむけて、記録や災害への備えをパネルや避難所再現をまとめ、震災の写真展を開催しました。また、復興アクションとして、食堂でひまわり油のこくうまみそ汁を提供しました。ひまわりは阪神・淡路大震災の復興の象徴とされており、組合員に身近なところから震災について考えるきっかけを作っていました。取り組みの当日もひまわりの種を植え、想いの継承が行われていました。

●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！